



## 極楽の日

ひとさじの会 代表 高瀬顕功



路上の方々におにぎりを配り始めて、9年が経ちました。私たちは、これまで、この炊き出し・夜回りにくわえ、葬送支縁、施米支縁推進を3つの柱として活動を行ってきたわけですが、

ここにもう一つ新たな取り組みが始まろうとしています。それは、子ども支縁です。

炊き出し会場となる光照院では、本堂裏手に「子ども極楽堂」を建設しました。そして、地元のNPO 台東区の子育てを支え合うネットワーク（通称、たいとこネット）と連携し、子ども食堂が始まりました。これは光照院の新たな取り組みではありませんが、ひとさじの会でもこの活動に協力し、この子ども極楽堂をお借りして、フリースペース「極楽の日」を開設することにいたしました。

これは、学校や家には居づらい、居てもつまらない、という子ども向けに、勉強しても、ゲームしても、漫画を読んでもいい、何もしなくてもいい、という使い方に制限のない居場所の提供です。このフリースペースの運営には、子どもの貧困問題にかかわり、現在大学院で臨床心理の勉強をし

# おにぎり通信

No. 03

ひとさじの会ニュースレター 2018

2018年6月20日

発行：社会慈業委員会（ひとさじの会）

〒111-0022 台東区清川 1-8-11 光照院内

hitosajinokai@gmail.com

http://hitosaji.jp

## 目次

- 1頁 極楽の日
- 2頁 平成 29 年度活動報告
- 3頁 平成 30 年度活動予定
- 4頁 為先会「リンちゃん追悼三日間別時」  
共に震えて一ベトナム僧侶の寝袋支援
- 5頁 児童養護施設卒園生への施米支縁  
「こども極楽堂」の完成
- 6頁 りんりんふえす 2017 開催レポート
- 7頁 ひとさじの会参加者感想
- 8頁 決算報告 支援協力御礼

ている学生スタッフに協力していただいています。

大人の貧困は、子どもの貧困の延長線上にあるものと思っています。経済的な事情だけでなく、人間関係においてもまた同様です。たとえば、幼少期、人に助けられた経験がないと、大きくなって「他人は頼れない」と様々な問題を自分だけで抱えてしまいがちになると聞きます。幼少期の体験は、他人への信頼や自己肯定感の醸成に大きくつながるというのです。

「極楽の日」が、生きづらさを抱えた子どもたちにとって、す「ごくらく」になれるような時間になったら嬉しいなあと思っています。

もちろん、今まで通り、月2回のおにぎりを持つての夜回りは続きます。私たちを待っていて下さる、おじさんたちが今夜もいますからね。

新たな取り組みも含め、私たちの活動をこれからも応援していただければ幸いです。

合掌

## 平成29年度の活動報告

### ○炊き出し・夜回り支縁

- ・ 期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日
- ・ 開催日数24回(原則として毎月第一・第三月曜日)
- ・ 配食数(おにぎり) 4379個
- ・ 医療・物資配布数 3952点
- ・ 配食ボランティア 618人(事前連絡者のみ)

平成29年度は前年度と比べて、衣料品(特に下着や靴下)をできるだけ多くの人に配ることができるよう準備を進めました。

医療品は配りやすくするため、沢山ポケットのあるベストを着用することになりました。

また、寒冷期には在日ベトナム仏教徒の支援を受けて寝袋も積極的に配ることになりました。もちろん、それとても路上に暮らすなかではわずかな必要を満たすに過ぎませんが、皮膚の病気等の予防と凍死に至らないためにできることを新年度にも継続してゆく方向です。

また、山谷の有名なアーケード街である「いろは商店街」のアーケードが経年劣化のために撤去されました。大勢の路上に暮らす方々が雨をしのぐ場所にもなっていただけに、どのよう

な影響が生じるのか懸念されるところです。風雨をしのぐためのブルーシートを要望する声もあるため、新年度にはブルーシートの配布も可能な限り行う必要があります。



医療品配布用ベスト

### ○葬送支縁

例年通り、池袋や山谷での夏祭り追悼法要を行った他、結の墓や山友会のお墓の合同法要等を行いました。納骨供養については、山友会関係者3名、つくろい東京ファンド及びNPOもやい関係者2名でした。

このうちの一人の男性は、亡くなる直前にひとさじの僧侶を枕元に招いてくれました。僧侶が話しかけていると、誇らしげにある演歌歌手とツーショットの写真を見せてくれました。彼は40年以上もある演歌歌手を応援し続けていて、そのご縁は彼にとって本当に大切な宝物だったのでしょう。一緒にいる人皆に見せてくれたのでした。加えて、会っておきたい人の名前を全部伝えてくれたので、亡くなるまでに会いたい人みんなに会えたのだそうです。葬送の日、なんと彼が応援していた演歌歌手から立派な花が贈られました。それを見た会葬者は一同笑顔。本当に豊かな人生の最期を見せて下さったのでした。

葬送支縁をさせていただくことは、一人の人間の最期から、その人がただ生きたということがそれだけで尊いことを教えてくれます。今後もしできる限り最期のお見送りのお手伝いをさせていただきます。



## ○施米支縁

平成 29 年度も、浄土宗滋賀教区青年会様主催の「近江米一升運動」や浄土宗災害復興福島事務所御内「ふくしまっ子 smile プロジェクト」様の「田植え稲刈り体験ツアー」のお米がひとさじの会に届けられました。また、この活動を理解して応援くださる全国の個人や団体、諸宗派の寺院様や檀信徒様よりお米を頂戴していません。一年間で集まったお米は 1 トン以上です。これらのお米は、ひとさじの会の活動で配られるおにぎりに使われる他、浅草山谷地域で活動する認定 NPO 山友会様や、NPO きぼうのいえ様、NPO 友愛会様、NPO フードバンク等の関係団体、こども極楽堂における子ども食堂や児童養護施設の卒園生等、「食」を必要としている方々にお福分けをさせていただきました。

おかげさまで、頂戴した慈愛とお米のいのちが、多くの人々の心身を育み温めてくださったことだと思います。新年度も頂戴したお米を一粒も無駄にすることがないように継続して参ります。

## ○九州支部・滋賀支部

九州支部と滋賀支部の活動は、主に施米支縁活動が中心です。滋賀支部は、NPO フードバンク滋賀と協働してのフードバンク活動と米一升運動の推進を行いました。九州支部は、大分米一升運動の推進と熊本地震被災地への慰問等を行っています。新年度も同様の活動を継続する予定です。

## ○一年の活動を振り返って

平成 29 年度の炊き出し夜回りの活動は参加者の人数が減少した年で、毎回の活動を成り立たせることが困難な一年となりました。参加者減少の原因は定かではありません。ただ、この活動もまもなく 9 年。長年活動に参加して下さっていた方の生活環境の変化やご家族の体調不良等によって参加できなくなっているなどの理由もあります。

翻って考えれば、それほどに長い期間、この

活動を支えてくださって来た方々が大勢いらっしゃったことを意味しています。誠に有難いことです。しかも、発会当初の活動と比べてみると、夜回りの範囲は拡大し、配布内容もおにぎりや市販の医薬品だけではなく、副菜や衣類、寝袋なども必要に応じて用意するようになりました。それでも、現在まで休むことなく活動を続けてこられたのは、路上に住まうおじさんたちの不請の友となろうと集まってきてくださる方々のおかげです。全体の活動人数が減少する一方で、さまざまな大学の学生たちやいろんな国籍の方々が足を運んでくださり、活動に新たな刺激をもたらしてくれていることも事実です。新年度も新たに来てくださるボランティアの方々と共に、路上のおじさんたちと少しでも良い時間を過ごせるように努めてまいります。

## 平成 30 年度の活動予定について

東京本部は例年通り、炊き出し夜回り支縁や葬送支縁、施米支縁、ビッグイシューサポートライブの応援等を行う予定です。また、昨年完成した「こども極楽堂」における子ども支縁活動の充実や、昨年から開始した体調不良を訴える人の身体の観察法や薬品を渡す際の留意点についての勉強会や社会の諸問題についての研修等も引き続き実施してまいります。なお、平成 30 年度の勉強会のテーマとしては「ジェンダー」に関する諸問題について取り扱う予定です。路上生活者支援のみならず、社会でも男女の社会的・文化的な役割について論じられています。仕事も生活様式も性別も生きる喜びもさまざまな人たちが集まる社会の中でお互いに快く暮らしていけるためにはどうしていったらいいのかを、考えたいと思います。

九州支部と滋賀支部は、双方引き続き施米支縁を行っていく予定です。その他、九州支部は熊本地震被災地域や大分県内の子ども支縁も行っていくとのことです。新たな活動の進展があれば、またご報告をさせていただきます。今後とも、ご声援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 〇為先会記事「リンちゃん追悼 三日間厳修別時念佛会開催」

為先会とは？ ひとさじの会有縁の方も集い、毎月1時間30分ほどのお念仏をお勤めする会です。

在日ベトナム仏教信者会さまと為先会が合同で、平成29年6月23日より港区の浄土宗寺院、日新窟さまにて「三日間厳修別時念佛会」を開催しました。別時念佛会とは、お念仏を申して阿弥陀如来さまと向き合う特別な時間を過ごす集いのことです。今回は、平成29年3月に松戸市で殺害されたレ・ティ・ニャット・リンちゃんの百力日忌を前に、その供養を捧げるために在日ベトナム仏教信者会代表の釈心智尼（ティク・タムチー／グエン・ティ・ユウ）と協力して行いました。

毎月多くの在日ベトナム人と一緒に活動を続けてきたひとさじの会及び為先会メンバーにとって、この度の事件は、到底、他人ごととは思えないものでした。まるで親友の子を身内の人間が惨殺したかのような強い悲しみや悔しさを感じたのです。とはいえ、亡き子を想って苦しむご両親に直接かける言葉など見つかりません。そこで、双方の国で共通する祈りであるお念仏を共に修し、せめてリンちゃんの後世安寧のために祈らせていただこうと、この法要が企画されました。当日は呼びかけに応じた両国籍の大



勢の参加者によって、日本語の「なむあみだぶつ」とベトナム語の「なもあじだふあ」という2つの言語の念佛回向が捧げられました。また後日、参加者の供養の気持ちのこもったご記帳（六字名号とお名前）がリンちゃんのご両親に届けられました。（吉水）

## 〇共に震えて 一ベトナム僧侶の 寝袋プロジェクト

新年最初の炊き出し夜回りに、ベトナムから複数の尼僧たちが参加してくださいました。でも、そこは厳しい寒さの日本。温暖な気候に慣れている彼女らは、あまりの寒さに震えながらの夜回りとなりました。在日ベトナム仏教信者会会長の釈心智尼（ティク・タムチー）の姉で、今回来日した釈心泉尼（ティク・タムトエン）は、一生懸命おにぎりを配って歩こうとするものの、あまりの寒さに文字通り身体の震えが止まらなくなり、最後には車にて休むことに……。釈心泉尼は、自らの身体を震わせながらも路上に眠るおじさんたちの身を安じ、何か彼らのいのちをつなぐために必要なものを届けられないだろうか真剣に考えました。そして、その夜、寝袋200個を路上に住む方々に用意することを発願したのでした。



タムチー尼

すぐさま尼僧姉妹は協力して信者たちに呼びかけました。すると、あっという間に寝袋170個が集まり、1月22日の雪の日に、尼僧姉妹は弟子や信者と共に夜回りにて配ってくださったのでした。その後も寝袋は集まり続け、最終的には200個が集まり、寒波の日や2度目の降雪の時に路上で配られた他、さまざまな路上生活者支援団体にも届けられました。内訳は以下の通りです。

|                |     |
|----------------|-----|
| ひとさじの会         | 63個 |
| 山友会様&ひとさじの会    | 18個 |
| (寒波・降雪緊急夜回り活動) |     |
| 山友会様           | 22個 |
| 山谷労働者福祉会館様     | 20個 |
| あうん様           | 29個 |

|            |         |
|------------|---------|
| ビッグイシュー東京様 | 8 個     |
| てのはし様      | 20 個    |
| 新宿連絡会様     | 20 個    |
|            | 計 200 個 |

寒波の夜、声掛けをして歩いていた時のこと。「寝袋がなかったら凍死していたかもしれない。あんがとな!」「寒いけど、コレ(寝袋)のおかげで助かったよ」などと、おじさんたちは安堵の表情をうかべて語ってくれた。わたしたちの団体から渡したかどうかは問題ではなく、届けられておじさんたちが少しでも温かく過ごせているならば、何よりも尼僧の姉妹が喜ぶことでありましょう。

仏教語のなかに「随悲」という言葉があります。原語はインドの古い言葉で「anukampa」といい、「共に震える」という意味です。日本の冬の寒さに身をおいて、路上のおじさんたちと共に震えた尼僧は、本当は大勢の方のそばに駆け寄り、直接手を温めたかったに違いありません。しかし、寒さに弱い身体のために、その想いを寝袋という形に変えて届けようとしてくださったのでしょうか。国は違えど、目の前の人と共に震え、本当に寄り添いたいと行動を起こした想いを、あらためて尊く感じさせてもらいました。この場を以て、ベトナム仏教徒のみなさまの尊い慈愛の気持ちに感謝を申し上げます。(吉水)

## ○児童養護施設卒園生への施米支縁

心地よい春の陽射しのもと、ひとさじの備蓄されているお米が都内の児童養護施設へ届けられました。届けたお米の分量は、30kgの大きな袋が2つ、5kgの小さな袋が20個、3kg袋が1つ、総量163kgです。



事の発端は、児童養護施設の卒園生同士の結婚式を炊き出しの会場でもある光照院であげさせていただいた折に、施設関係者から次のようなお話を聞いたことです。

「みんな施設に居る間は何も食べることに不自由することはないんだけど、卒園するとね、頼るところがないもんだから仕事もうまくいかななくてお金のない時には、食べるものにも事欠くことがあるんです。だから、お米だけでもあると助かるんですよ」と。

以前から、社会的養護を卒業した青年たちの居場所をつくる団体「ゆずりは」さんなどの記事で学んだつもりでいましたが、一日の食べるものにも事欠く状況になって、「お願い」とか、「助けて」とか言えない、言う相手がいない状況は、本当にしんどいことでありましょう。

ひとさじの会には、幸いにも全国から多くのお米が届きます。みな、お辛い人のために使ってほしいという思いと、少しでも安寧に暮らしてほしいという祈りを込めて送ってくださいます。そこで、ひとさじの会の炊き出し夜回りの際に、ボランティアの方々にお手伝いしていただきながら、お米の袋詰めを手伝っていただき、5kg袋を20袋用意しました。でも、女の子には重いかもしれませんので、好きな分量が入れるように、大きな30kgのお米と小分けの袋20枚も一緒に添えて届けさせていただきました。

たくさんの方からのお心や祈りのこもった浄米が、青年たちのいのちをつむぐ力になってくれることをせつに祈ります。そして、この施米活動も、ひとさじへお米の支縁をくださっているみなさまのおかげです。今後もこのような活動を継続することになります。ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。(事務局)

## ○「こども極楽堂」の完成!!

炊き出し会場となっている光照院では、戦後すぐから先代住職によって「明照こぼと子ども会」の活動が行われていました。子ども会は多くの子どもの居場所となり、大人や大学生たちと子どもたちが触れ合い、学び合う場所として機能していました。ところが残念なことに、地

域の子どもの減少などによって30年ほど前に活動は休止となりました。しかし、昨今、教育の格差が広がり、地域の人間関係も希薄化するなかで、再びどんな家庭の子どもたちも安心して集まることができる場所が求められるようになりました。

そのような折、同じ台東区で子育て支援を行っているNPO法人たいとこネット（台東区の子育てを支え合うネットワーク）より子どもの無償学習支援の場所を提供してほしいという相談が光照院に寄せられました。また、それと前後して光照院裏にお住まいだった檀信徒から建物をご寄進を賜るお話を頂戴しました。光照院住職も副住職もこれは佛縁に違いないと感じ、寄進された建物を耐震改修して、再び子どもの居場所をつくることを決意し、耐震工事を開始しました。

平成29年10月にこどもの居場所は完成し、「こども極楽堂」と命名されました。現在の活動としては、NPO たいとこネットによる週2回の無償学習支援と、月2回の子ども食堂が行われています。この他、NPO 下町グリーンサポート響和国による子どもに関係するグリーンサポート活動や、ひとさじの会メンバーが主催する、子どもたちが勝手に来て、ぼんやりできる居場所支縁「ごくらくの日」等が開始される予定となっています。また、佛敎的情操教育を行うことも

考え、為先会による念佛道場も開催される予定です。今後、地域住民やさまざまな市民活動団体、行政、民生・児童委員等とも連携して、学校にも家庭にも居場所のない子どもたちが安心して居られる場の構築を目指していきます。（事務局）

## 〇りんりんふえす 2017 開催レポート

ホームレスの方々が販売する雑誌ビッグイシュー（販売価格350円のうち180円が販売者の収入となる）を応援するイベント「りんりんふえす2017」を平成29年10月15日に開催しました。当日は250人以上が来場。炊き出しは今年も在日ベトナム仏敎信者会の皆さんが、作りたてホカホカの精進揚げ春巻きをおふるまいくださり大好評でした。音楽部門はイベント発起人の寺尾紗穂さん、路上生活者のダンスチームのソケリッサをはじめとする計6組が出演。大道芸人の加納真実さんの驚異的なパフォーマンスで会場は大きな笑いの渦に包まれました。座談会のテーマは「ひとりの老いを、みんなで生きる」。進行役を弊会事務局長の吉水岳彦がつとめ、ゲストに文化人類学者の福井栄二郎さん（島根大学教授）を招き、老いや介護に関する多様な価値観について話し合いました。すこし難しいテーマかと思いましたが、アンケ



ートを見ると  
思いがけず大  
きな反響が！  
「こんなにあた  
たかい目線を  
持った大人の  
方々がその目  
をもって社会  
を生き、この  
りりんふえ



ホカホカの精進揚げ春巻き

すを開いてくださっている事実がこれ以上ない  
くらいの励みになりました」「優しく生きたい！  
そう思った！よいイベント」とのコメントが感  
慨深かったです。新年度も10月に開催予定な  
ので楽しみに。(工藤)

## ○ひとさじの会参加者感想

文：渡邊龍彦

2017年11月27日(月)

182回目のひとさじの会の活動

マフラーが必要なくらいの寒さの中、2度目  
のひとさじの会に参加しました。ひとさじの会  
については大学の講義で知りました。それまで、  
路上生活者というのは「素通りしてしまう存在」  
であったり、ともすれば「近寄りたくない」「何を  
言われるか怖い」という印象さえありました。

初めて参加した時にはとにかくドキドキして  
いきました。何かトラブルに巻き込まれるので  
はないか、怒られるのではないか。そんな思い  
とは裏腹に、初めておにぎりを渡した路上生活  
者の方に言われた最初の言葉は「ありがとう」  
でした。前回も今回も、もしかしたら一番多く

言われた言葉が「ありがとう」「いつもありが  
とう」という言葉でした。ひとさじの会の築き上  
げた信頼、そして自らがどれだけ無関心で彼ら  
に目を向けずにいたのかを実感させられる言葉  
でした。

ひとさじの会における夜回り活動は夜8時か  
ら10時の間に行われ、おにぎりやカイロを配  
ります。配食用おにぎりの炊き出しは午後3時  
から始められます。お手伝いの中にはベトナム  
や韓国、台湾からいらした方、福祉に携わって  
いた方、仏教に興味を持たれている方など様々  
な方が集まって、路上生活者のためにおにぎり  
を握ったり、荷物をまとめたりしています。そ  
の中にはお子さんや学生、退職した方など老若  
男女も入り混じっています。もちろん副住職以  
外の僧侶の方含めて、皆さんで明るく活動を  
していっしょにやります。これだけ様々な人々が、  
路上生活者のために何かできないかと、あるい  
は単純な興味だったとしても、素晴らしい共有  
の場であると感じました。

ですが疑問もありました。ひとさじの会の炊  
き出し・おにぎり配食は月2回の行事です。月  
2回の配食で、本当に彼ら彼女らのためになる  
のだろうか。ある方に尋ねてみました。返っ  
てきた答えはこうです。まず何よりも大切な  
のは、「あなたのことを気にかけている人がここ  
にいますよ」ということを伝えることなのだ。

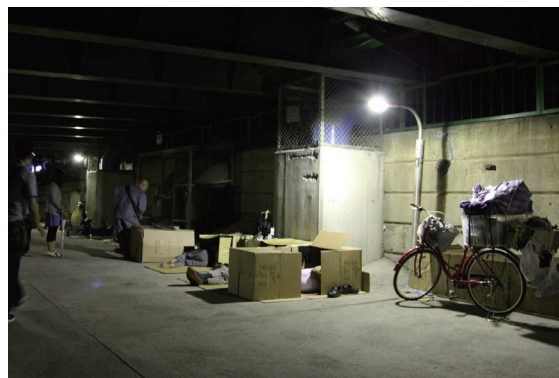
ひとさじの会では路上生活者の方々を親愛の  
情をこめて「おじさん」と呼びます。何の力も  
ない私ですが、「寄り添う」ことならできるかも  
しれない。月2回だとしても、「いつもありが  
とう」と言って下さる「おじさん」との不思議  
な縁に感謝して、これからも「支縁」活動に参  
加していきたいと思っています。



竹の子ご飯



おにぎり調理の様子



おにぎり配食の様子

## 平成 29 年度決算報告

平成29年4月 1日～平成30年3月31日

(単位:円)

### 収入の部

| 科目  | 項目  | 細目        | 予算額       | 決算額       | 差異        | 備考                                    |
|-----|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|---------------------------------------|
| 賛助金 | 賛助金 |           | 2,000,000 | 2,245,000 | ▲ 245,000 | 会員及び正規会員の賛助金、並びに諸団体の賛助金(太田慈光会40万円)の合計 |
|     |     | 事業協力金     | 500,000   | 500,000   | 0         | (公財)浄土宗ともいき財団より事業協力金として50万円           |
|     | 合計  |           | 2,500,000 | 2,745,000 | ▲ 245,000 |                                       |
| その他 | 雑収入 |           | 10,000    | 46,119    | ▲ 36,119  | 銀行口座利息、りんりんフェスパンプレット印刷代(ともいき財団より)     |
|     |     | 繰越金       | 2,844,866 | 2,844,866 | 0         | 前年度繰越金                                |
|     | 合計  |           | 2,854,866 | 2,890,985 | ▲ 36,119  |                                       |
| 総計  |     | 5,354,866 | 5,635,985 | ▲ 281,119 |           |                                       |

### 支出の部

| 科目  | 項目     | 細目        | 予算額       | 決算額       | 差異        | 備考  |  |
|-----|--------|-----------|-----------|-----------|-----------|---|--|
| 事業費 | 炊き出し費  | 食材        |           | 165,471   |           | 79,184  | アメ(¥77,620)、おにぎり(¥9,527)、その他食材ふりかけ等(¥78,324) |
|     |        | 医薬品       | 1,000,000 | 246,934   |           |   | 医薬品  |
|     |        | 配布物       |           | 406,453   |           |   | 下着類、寝袋、軍手、カイロ、交通費等                           |
|     |        | 消耗品等      |           | 101,958   |           |   | サララップ、紙コップなど                                 |
|     |        | 合計        | 1,000,000 | 920,816   | 79,184    |   |  |
|     | 研修会費   | 設営費、講師謝礼等 | 150,000   | 33,411    | 116,589   | 講師謝礼  |  |
|     | 活動推進費  | 企画製作費     | 300,000   | 134,303   | 165,697   | ホームページ、バッチ、リーフレット等  |  |
|     | 設備費    | 倉庫等       | 700,000   | 633,750   | 66,250    | 炊き出し会場賃貸費((公財)浄土宗ともいき財団の賛助金から支出)ガスフライヤー、光照院へ消耗品費(月10,000円×12)     |  |
|     | 提携事業費  |           | 300,000   | 191,604   | 108,396   | りんりんフェス(¥72,832)、夏祭り(¥18,772)、祈りの道助成金(¥100,000)                   |  |
|     | 特定活動費  |           | 1,900,000 | 327,349   | 1,572,651 | ペット火葬 極楽堂(ひとさじ共用冷蔵庫¥189,674含む)<br>※H29年度予算内の滋賀支部の冷蔵庫、災害時緊急支援使用無し。 |  |
| 合計  |        | 4,350,000 | 2,241,233 | 2,108,767 |           |   |  |
| 管理費 | 事務消耗品費 |           | 220,000   | 113,970   | 106,030   | 事務用品、会計庶務費(月6,000円×12)  |  |
|     | 通信費    |           | 100,000   | 22,820    | 77,180    | 郵送料等  |  |
|     | 雑費     |           | 280,000   | 198,383   | 81,617    | 夜回り時交通費、理事会会議費等   |  |
| 合計  |        | 600,000   | 335,173   | 264,827   |           |   |  |
| 予備費 |        | 404,866   | 0         | 404,866   |           |   |  |
| 総計  |        | 5,354,866 | 2,576,406 | 2,778,460 |           |   |  |

|        |           |
|--------|-----------|
| 総収入    | 5,635,985 |
| 総支出    | 2,576,406 |
| 次年度繰越金 | 3,059,579 |

### 平成 29 年度 寄附寺院・団体 (順不同敬称略)

(公財)浄土宗ともいき財団、(一財)太田慈光会、在日ベトナム仏教信者会、成覚寺和顔じぞう復興プロジェクト(仙台市)、福泉寺(甲賀市)、生西寺(文京区)、光永寺(栃木市)、戒法寺(品川区)、泉福寺(江戸川区)、大蓮寺(川崎市)、光源寺(文京区)、妙雲寺(益田市)、大道寺(大阪市)、圓通寺(江東区)、慶岸寺(横浜市)、定泉寺(文京区)、感応寺(世田谷区)、宝蓮寺(栃木市)、慈眼寺(北九州市)、十念寺(長野市)、大王寺(春日部市)、浄念寺(福川市)、妙長寺(河内長野市)、極楽寺(宇部市)、西光寺(石巻市)、法學寺(長野市)、養命寺(藤枝市)、極楽寺(福山市)、新勝寺(成田市)、安養寺(江戸川区)、大長寺(鎌倉市)、西光寺(墨田区)、真行院(台東区)、法源寺(富士市)、正覚院(江東区)、良心寺(横須賀市)、誠心寺(江戸川区)、来迎寺(香取市)、照光院(江東区)、日新窟(港区)、宝国寺(いわき市)、安養寺(大分市)、雲上寺(塩釜市)、長昌寺(杵築市)、満蔵寺(いわき市)、実心寺(足立区)、常行院(松戸市)、回向院(墨田区)、實相寺(本庄市)、浄光寺(山市)、光専寺(武蔵野市)、ひとなべ会員5名、ひとはち会員74名、ひとさじ会員34名でした。

### 浄米・物資寄付並びに活動協力寺院・団体 (順不同敬称略)

淑徳大学、大正大学、東京工業大学、二松学舎大学、慶応大学、東洋大学、立教大学、上智大学、ピックアップ・ジャパン(新宿区)、在日ベトナム仏教信者会(港区)、梅窓院(港区)、(公財)ともいき財団、(一財)太田慈光会、(公財)仏教伝道協会、NGO テラ・ネット、増上寺(港区)、正定寺(古河市)、照光院(江東区)、良心寺(横須賀市)、大雲寺(江戸川区)、天然寺(木島平村)、真勝院(葛飾区)、来運寺(天童市)、泉水寺(富津市)、正覺院(江東区)、十念寺(上越市)、正円寺(沼田市)、来迎寺(香取市)、浄土寺(香取市)、東光寺(板橋区)、慶岸寺(横浜市)、善光寺(松戸市)、西念寺(二本松市)、(社)福浅草寺病院、シンママ熊本応援団(熊本市)、滋賀教区浄土宗青年会近江米一升運動(草津市)、福島教区浄土宗青年会ふくしまっ子 Smile プロジェクト(いわき市)、上記の寺院・団体以外にも多くの方から浄米また、物資のご寄付を頂戴いたしました。また、斎藤道子さまは、活動で使用したおにぎりバッグを定期的に洗濯をしてくださいました。この場をお借りして、ご寄附、浄米、物資、そして活動に加わって下さったすべての皆様に深く御礼を申し上げます。今後ともご協力、ご支援の程よろしくお願い致します。

ひとさじの会代表 高瀬頭功拝